

これからの社会で求められる力の向上を目指して

「総合的な学習の時間」を 進化させるフレームワーク

「総合的な学習の時間」が高校に導入されてから10年余。各高校でも特色ある教育としてさまざまな形での取り組みが行われていると思います。一方で、具体的な取り組み方法や育む力などについてわからないという戸惑いの声もよく伺います。社会が大きく変化し、求められる能力や資質も大きく変わる今。「総合的な学習の時間」を今一度見直すことで、課題やテーマへの気づき、教科学習との関係性が見えてくるかもしれません。ぜひ、担当の先生方と一緒に取り組んでみてください。

企画協力／眺野大輔(静岡県富士市教育委員会)、廣瀬志保(山梨県立富士河口湖高校)
取材・まとめ／小島由希

「総合的な学習の時間」で育む 汎用的能力、そして一人ひとりの可能性

「総合的な学習の時間」の 目標と課題

変化の激しいこれからの社会では、知識の習得だけでなく、知識やスキルを社会で活用できる汎用的能力が必要とされます。そして、生徒の汎用的能力を育成するためには従来の教科の授業改善だけでなく、探究的・協同的に学ぶ「総合的な学習の時間」(以下「総学」)の学びの充実が欠かせなくなっています。そこで、あらためて「総学」の目標を確認してみましよう。学習指導要領では以下のように示されています。

第1 目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方(高等学校では「在り方生き方」)を考へることができるようになる。

しかし、「総学」を実践すれば汎用的能力が育つかというと、そう簡単なものではないかもしれません。社会とともに求められる

る能力が変化する中で、授業内容や教師の意識などにも変化が求められています。

新しい時代にふさわしい 「総合的な学習の時間」 一層の充実

では、こういった変化が求められているのか。中央教育審議会の答申(平成26年12月22日)には、新しい時代にふさわしい高大接続改革について示され、高等学校教育の質の確保・向上において「総合的な学習の時間の一層の充実」が示されて

います(左記参照)。課題発見・解決に向けた主体的・協同的な学びを重視した教育への転換が求められていることが伺えます。

「総合的な学習の時間」を 進化させるために

では、さらに質の高い「総学」に取り組むためのポイントは何でしょうか。そのヒントとして、実際に「総学」を設計・推進してこられた先生方のお知恵を借り、フレームワークを開発していただきました。学習指導要領の狙いに沿った「総学」に取り組んでいるか、学習内容・カリキュラム改善などのポイントについて話し合ってみてください。まずは自校のできることから。生徒一人ひとりの可能性を伸ばしていく「総学」の授業進化を願っています。

「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた 高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的 改革について」(抜粋)

2.新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた改革の方向性 (2)高等学校教育の質の確保・向上 ②高等学校の教育内容や学習・指導方法、評価方法等の見直し

- ◆「思考力・判断力・表現力」を育成するための、課題の発見と解決に向けた主体的・協同的な学習・指導方法の飛躍的充実
- ◆英語において四技能を系統的に育成するため、小学校から高等学校までを通じて達成を目指すべき教育目標を、「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、四技能に係る一貫した具体的な指標の形で設定すること
- ◆国家や社会の形成者となるための教養と行動規範、また自立して社会生活を営むために必要な力を、実践的に身に付けるためのカリキュラムを充実させること
- ◆高度な思考力・判断力・表現力を育成・評価するための新たな教科・科目を検討すること
- ◆大学の卒業論文のような課題探究を行う「総合的な学習の時間」の一層の充実に向けた見直し
- ◆特別支援教育の充実のための見直し

また、これからの高等学校教員には、課題の発見と解決に向けた主体的・協同的な学びを重視した教育を展開するとともに、生徒の多様な学習成果や活動を適切に評価することなどにより、これからの時代に必要な資質・能力を身に付けさせ、生徒一人ひとりの可能性を伸ばしていく観点から指導を行う力量が求められる。

出典：中央教育審議会(平成26年12月22日)

Step.1



「総合的な学習の時間」をセルフチェック

このフレームワークでは、「生徒の成長」「教師の指導力」「学習内容の工夫」の3つの視点から、自校の「総学」の取り組みについて振り返ります。取り組めていないと思われる項目にはチェックを付けてください。

生徒の成長

→課題だと思うことは何ですか？

Check

- 生徒は、地域や社会の課題に対して、自分に何ができるかを考え、言葉にして伝えることができる。
- 生徒は、多様な意見を持つ人や年齢の異なる人とも自然に議論ができる。
- 生徒は、状況に応じてグループをつくり、発想を広げたり、異なる視点で分析したりできる。
- 生徒は、答えのない課題にも、失敗を気にせず挑戦し、どんな結果からも次へのヒントを見出せる。
- 生徒は、自らが見出した課題意識を元に、将来のキャリアを描くことができる。

教師の指導力

→課題だと思うことは何ですか？

Check

- 教師は、「総合的な学習の時間」の目標で示されている力を、生徒の具体的な活動の姿で説明できる。
- 教師は、生徒の行動を見通すことができ、生徒の力を信頼して、次の行動に進むまで待つことができる。
- 教師は、「総合的な学習の時間」の指導について、担当者同士で日常的に構想したり情報共有したりできる。
- 教師は、成果物の良し悪しよりも、そこに至るまでの思考や行動の過程における気づきの重要性を理解している。
- 教師は、積極的に校外の協力者と連携関係を築くことができる。

学習内容の工夫

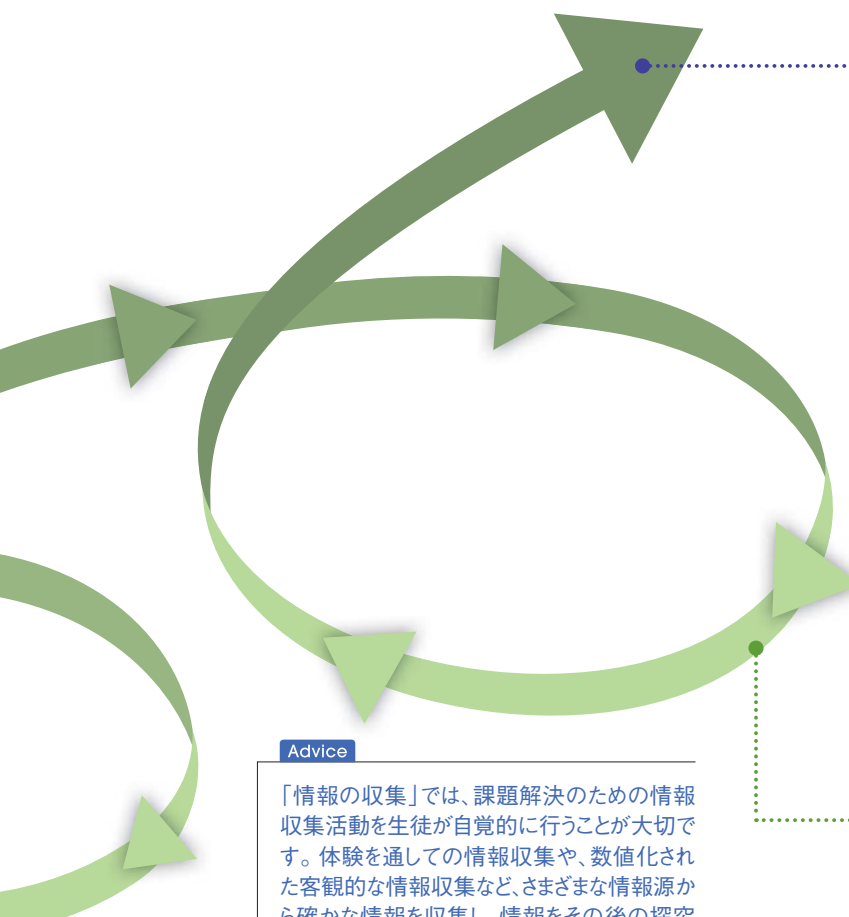
→課題だと思うことは何ですか？

Check

- カリキュラムは、地域の特徴を取り入れた、学校独自のもので実施している。
- カリキュラムは、生徒の主体的な課題解決活動を行うのに十分な期間で計画している。
- 講演会や講義は、生徒が自ら定めた課題の解決に必要な気づきを与える場面として設定されている。
- 体験活動は、生徒が自ら設定した課題についての考えを深めるために、必然性のあるものになっている。
- カリキュラムは、生徒の実態や前年までの反省を考慮して、継続的に改善している。

Check & Action

自校が意欲的に取り組んでいるところ、不十分だと思われるところを、客観的にとらえることができたのではないのでしょうか。生徒の実態や地域の特徴に応じた課題などを題材に学び、生徒と教師が共に成長できる授業はほかにありません。もし少しでも気になる項目があれば、カリキュラムや取り組みについて見直してみましょう。



□ 発展的に繰り返すために

できている わからない できていない

Point

- グループ内、クラス内など、すべての生徒に発表する機会を繰り返し設定している。
- 一連の学習プログラム内に、成果の報告が求められる発表会を複数回設定している。
- 生徒の学習意欲を維持するために、体験活動を意図的に複数回計画している。
- 生徒に学習の見通しを持たせるために、先輩の学習成果を見る機会を設定している。

Advice

「総合的な学習の時間」を探究的な学習として深めるためには、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」が繰り返され、スパイラルに高まっていくことが重要です。学習の過程が前後する場合がありますが、学習活動の一連のつながりが大切です。

Advice

「情報の収集」では、課題解決のための情報収集活動を生徒が自覚的に行うことが大切です。体験を通しての情報収集や、数値化された客観的な情報収集など、さまざまな情報源から確かな情報を収集し、情報をその後の探究活動にも生かせるように蓄積します。

□ 情報の収集

できている わからない できていない

Point

- 実際の現場に出て情報収集する体験的な活動がある。
- 課題に応じた適切な情報収集ができる方法や場面を考えている。
- 情報収集の目的が明確で、生徒が目的を意識できる活動になっている。
- 体験的な活動で得た情報を、適切な方法で記録する工夫がある。
- 収集した情報を生徒同士で共有する活動がある。

Check & Action

「探究的な学習」「協同的な学習」の全体を俯瞰してみると、どこに力を入れれば良いのか見えてくるのではないのでしょうか。探究的・協同的な学習を通して、生徒が思考力・判断力・表現力を身に付けられる学習プログラムを自校で開発するために、強化したい項目の「□」にチェックを入れ、アドバイスを参考に一つひとつ見直してみたいかがでしょうか。

□ 協同的な学習

できている わからない できていない

Point

- 生徒が多様な考え方を持つ他者とのかかわる機会を設定している。
- 生徒が他者と話し合い、新しい価値を創造するような機会を設定している。
- 学習活動が社会参加や社会参画につながり、生徒の学習意欲が高まるよう工夫している。
- 探究的な学習の各プロセスにおいて、いつでも協同的な学習を行っている。

Advice

「探究的な学習」では、他者と協同して課題を解決する「協同的な学習」をどのプロセスでも重視し、社会に参画・貢献する資質や能力及び態度を育成します。生徒間の協同、地域社会への参画や貢献など、生徒の探究活動に適した協同的な活動の設定が大切です。



「総合的な学習の時間」を磨くために知っておきたい 探究的・協同的な学習のポイント

中央の図は、「総学」のカリキュラム設計に欠かせない「探究のプロセス」です。このフレームワークでは、自校の「総学」のカリキュラムが、「探究的な学習」であり「発展的に繰り返されている」か、また「協同的な学習」となっているかどうかを確認します。各項目を順に確認し、もしわからないことがあれば、各プロセスのポイントやアドバイスを見ながら理解を深めてみましょう。

□ 課題の設定

できている わからない できていない

Point

- 生徒が自ら課題を設定する計画になっている。
- 生徒が課題を実感できる体験的な活動が設定されている。
- 生徒が課題設定について検討する時間が十分にある。
- 生徒同士が協同的に気づきや課題を出し合う活動がある。

Advice

「課題の設定」では、生徒が自ら課題意識を持って学習対象と出合えるよう、教師の工夫が求められます。各生徒の発達や興味・関心を受け止め、人、社会、自然に直接かかわる体験活動を設定します。

Advice

「まとめ・表現」では、整理・分析した情報を、自分自身の考えとしてまとめ、他者に伝える学習活動を行い探究を深めます。伝達方法を身に付け、情報を伝わりやすく再編成することで新たな課題や目的意識が明確になり、学習の質が高まります。

□ まとめ・表現

できている わからない できていない

Point

- 生徒が、自らの体験を通して見出した考えをまとめる工夫がある。
- 伝える相手を想定して、表現する内容や方法まで考える工夫がある。
- 伝えたい内容や思いを持った発表や報告にするための工夫がある。
- 伝える活動を通して、生徒が自身の新たな課題を見つけるための工夫がある。

Advice

「整理・分析」では、収集した情報を使って思考する活動を行います。どのような方法で情報の整理・分析をするのかを決定し、整理・分析をする中で、比較検討、分類、序列化、関連付け等の思考方法を学びます。

□ 整理・分析

できている わからない できていない

Point

- どのような情報が、どの程度収集されているかを検討する機会がある。
- 収集した情報を、生徒同士やクラス内で共有する工夫がある。
- 情報を整理し、分析する方法について生徒同士で検討する場面がある。
- 収集した情報をまとめる、比較するなど、分析する活動がある。
- 各教科・科目の知識・技能と「総学」を関連付けて考える場面がある。

① 課題の設定

② 情報の収集

③ 整理・分析

④ まとめ・表現



プロジェクトを立ち上げ、「総学」を進化させる

カリキュラムを動態化させ、指導計画を確実に実施していくためには、学校全体を巻き込んだ推進体制の整備が欠かせません。そして、校長のリーダーシップをベースとした、以下の4つの視点を取り入れた体制の整備が重要です。このフレームワークでは、まず「総学」を推進するための校内体制がどの程度整っているかを把握し、状況に応じて行動計画を立てていきます。

校内組織の整備

- 校長や管理職は、育てたい力についてビジョンを持ちリーダーシップを発揮している。
- 「総合的な学習の時間」の推進を業務とする校務分掌が設置されている。
- 担当する校務分掌に、全体を総括する「総学コーディネーター」と学年企画担当が所属している。
- 「総学コーディネーター」や学年企画担当が複数年にわたり授業づくりや授業改善に携わっている。
- 学年企画担当と授業担当の打ち合わせが毎週行われている。
- 「総学コーディネーター」と学年企画担当による打ち合わせが定期的に行われている。
- 各授業時間での生徒の具体的な活動がわかる資料が、記録として蓄積されている。
- 全教員を対象とした「総合的な学習の時間」に関する研修が、定期的かつ効果的に行われている。

学習環境の整備

- 図書室は、司書または司書教諭と連携して学習情報センターとして積極的に活用されている。
- パソコン室が、学習の流れに合わせて利用できるよう、時間割が配慮されている。
- ICT環境の効果的な活用について教員の研修が実施され、計画的な導入を検討している。

授業時数の確保と弾力的な運用

- 「総合的な学習の時間」の趣旨に沿った内容を実施するために、適切な授業時数が確保されている。
- 体験活動や発表会等が、学習の流れに沿った適切な時期に実施できるよう柔軟な対応をしている。
- 活動内容や趣旨に合わせて、学級や学年の枠を外すなど柔軟な指導体制を整備している。

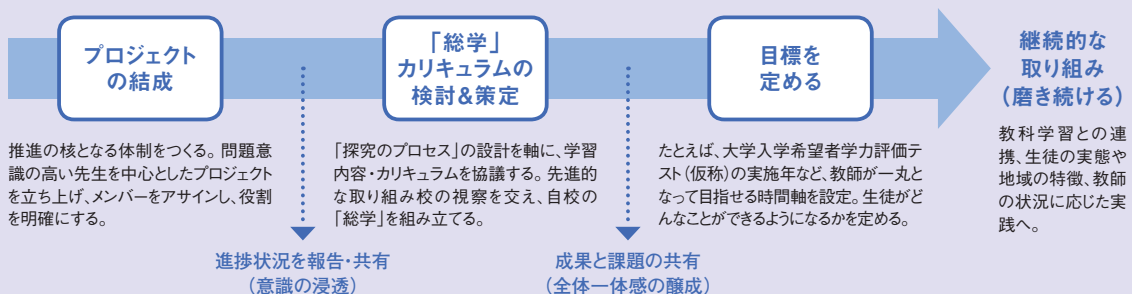
外部との連携の構築

- 地域の特徴や実態を十分に考慮し、地域資源を積極的に活用できている。
- 校外の協力者との連携を推進する「総学コーディネーター」を設置している。
- 校外の協力者に、自校の状況や協力内容などについて説明する事前打ち合わせを行っている。
- 校外の協力者と、定期的な情報交換が可能な連携関係を築いている。

Check
&
Action

プロジェクトの推進力が「総学」を進化させていく

「総合的な学習の時間」づくりプロジェクトチームの立ち上げ



プロジェクトメンバーは「総学」や新テストへの対応など課題意識を持った先生が望ましいでしょう。そして学校全体に影響が及ぶ内容であるため、学校管理職の支援のもと、校内で認知されたプロジェクトであることが重要です。プロジェクトチームでアイデアを出し合い、具体的な改善策と目標についてイメージを共有していきましょう。

「総合的な学習の時間」をさらに磨くためには

生徒の「思い」を育てられるのは「総学」だけ。
そこに教師としてどう向き合うかが大切

私自身が一番大変だったのは、ゼロから「総合的な学習の時間」の推進に取り組み始めたときでした。当時はほかの高校を見させていただいてもモデルになるカリキュラムや事例がほとんどなく、カリキュラムをつくり校内体制を整えるのに、相当な時間とパワーが必要でした。

しかし今では、すでに「総学」に熱心に取り組む先生方がたくさんいらっしゃる。オリジナリティのある事例もたくさん出てきました。カリキュラムを見直す際には、そういった事例の中から、できそうなことを見つけ、やってみればいいのです。やり始めることが大事で、そこからは自校の生徒や教師に合った形にアレンジしていけばよいのではないのでしょうか。そうして教師も探究を繰り返すうちに、自校だけのオリジナルの「総学」になっていくはずです。

また、すぐに目に見えた結果が出ないからといって、焦ることはありません。もともと「総学」は取り組みから成果が出るまで、時間がかかるものなのです。そういうものだと理解して教師自身も余裕を持ち、生徒が育んでいる「思い」や小さな成長まで見逃さないよう、見守ってあげることが大事ですね。

探究的な学習の中で生徒の「思い」を感じたら、教師はそれをどんどん引き出



静岡県富士市教育委員会
静岡県富士市立高等学校
教育推進室 指導主事
眺野大輔氏

してあげてください。なぜなら社会ではどんなにすばらしい知識やスキルを持っていても、「思い」がなければ単なる宝の持ちぐさだからです。「地域や社会に何か貢献したい」「未来の社会を少しでも良くしたい」といった社会や地域に対する本気の「思い」を「総学」で育むことで、「社会で求められる力」と言われるものが、社会のどこにつなげていくのか、生徒自身の力で気づかせてあげてください。そんな生徒の「思い」をかなえるため、教師として生徒にどんな経験を留意してあげられるのか。どんな人との出会いを用意してあげられるのか。「総学」で生徒がより広く深い経験ができるよう、枠を提供していくことも教師の役割だと感じています。生徒たちの個性や地域の特徴に応じた社会課題を題材として学ぶことができるのは「総合的な学習の時間」だけに与えられた特徴です。これからも生徒たちの「思い」に向き合い、少しでもそれを引き出していけたらと考えています。

「探究的な学習」は、生徒の成長だけでなく
教科や教師の成長にもつながる

「総合的な学習の時間」を磨くにあたって大事なことは、まず「探究的な学習」とは何かを理解すること。探究の4つのプロセスを明確に意識して「探究のプロセス」を体験することです。「総学」は、マニュアルどおりにやれば良い、というものではないんですね。そのときの生徒によって、またそのときの教師によって、どんな「探究的な学習」が合っているのかが変わってきますので、やってみてからわかることも多く、カリキュラムは毎年見直しが必要になります。どのようなカリキュラムをつくるかは、教師である私たちの探究そのものであると言えるかもしれません。正解は、一つではないのですから。

「総学」のカリキュラムづくりには、さまざまな教科の教師が集まって連携していくことが欠かせません。お互いに専門知識やスキルを持ち寄りますので、大きな刺激を受けることができます。私自身もファシリテーションや、見守る姿勢など、教師として多くのことを学びました。そしてその刺激を自分の教科に持ち帰ると、「総学」と教科との相互作用が生まれます。

たとえば、私が担当している理科でも「総学」での経験が生きています。ただ単に教科書どおりの実験をやりなさいというのではなく、生徒には「どんな実験を



山梨県立富士河口湖高校
教諭
廣瀬志保先生

行っかを考える」ところからチャレンジしてもらっています。このように答えが決まっていけない課題に生徒がチャレンジするときは、成果だけでなく過程も重視しますので、教師は生徒を見守りながらサポートします。「探究的な学習」は生徒が探究することを教師も一緒に考え、一緒にわくわくできる時間。こうした活動の中で、生徒が「できた」「自信が持てた」と言ってくれたときは、教師としてのやりがいを感じます。

生徒たちには「総合的な学習の時間」を通して、自ら問題意識を持って課題を追究する力を身に付けてもらい、主体的に学ぶことの楽しさを知ってもらいたいですね。そしてそれが将来につながる生きる力になれば、教師としてこんなに嬉しいことはありません。そのためには教師である私たちも、よりよいカリキュラムづくりや教師としての在り方を、探究し続けることが大事です。私も生徒と一緒に探究し、成長していきたいと思っています。